

## 認知症公開講座の開催報告～その2～

3月23日に浮羽医師会とうきは市の共催で、「認知症をより良く生きる社会をつくろう」認知症になった‘私たち’からのメッセージというテーマで公開講座を開催しました。先月に引き続き、今月号は若年性認知症当事者のインタビュー形式によるメッセージをお知らせします。

### 58歳の時に若年性認知症と診断された男性

#### 診断を受けた時の気持ち

「58歳の時に認知症の診断を受けました。自分が入院している時に親と兄弟が話し合っ**てバイクと車の免許を取り上げていました。一カ月間の入院期間の後、自宅で免許証を探しても探しても出てこなかった**ので「どげんしたと？」と聞くと、みんな黙ってしまい、嫁が免許証を返納したことを言いました。

病院で寝ている時の、自分の知らない間に免許証を勝手に持って行かれていた。免許証だけでなく、自宅に戻った時はもう車もなかった。悔しかった。

**なぜ一言自分に話してくれなかったのか、自分の事だし、自分に話してほしい。**認知症の診断を受けた時、仕事をしていた。自分はまともにしとるつもりだが退職届を出しました。悔しい思いがあったが仕事を辞めました。

それから医師には、診断するだけでなくきちんと説明してほしい。」



#### 現在の気持ち

「今は好きな物作りとソフトボールを楽しんでいます。仕事もしたい。」

### インタビュー者 大谷るり子氏のコメント

本人はあふれるように車の免許の事を言われ、相当悔しい思いが残っておられます。家族は悩んだ末に免許証を返納したのでしょう。

私たちの**反省**として、本人によかれと思**い何も言わずに処理する事があります。本人達にとっては自分の事だから自分に言ってほしい**と思っています。言われた事に対して抵抗があるかもしれないが本人に言う必要がありますね。

それから、認知症の診断を受けた方に対してもっと制度が進み、できないところは手伝ってもらって、仕事ができる社会、仕事が継続できる社会になるといいです。

#### ～講演会参加者からの感想～

- ・「認知症当事者の声を実際に聞いて勉強になった。」
- ・「つつい本人抜きに話をしていた事に、はっとさせられました。」

などの感想を頂きました。

次回は、もう一名の認知症当事者のインタビュー形式によるメッセージについてご紹介します。

●問合せ 地域包括支援センター TEL75-4105

### 若年性認知症とは

65歳未満で発症する認知症。働き世代にも起こる認知症は、本人だけでなく家族の生活に与える影響は高齢者の発症に比べ大きく、社会的にも大きな問題となっている。